

大阪市立大学理学部附属植物園

友の会だより

第 27 号

平成 27 年 3 月 7 日

発行 植物園友の会

会長 児玉 隆夫



ヒスイラン（ブルー・プヤ）

—プヤ・ベルテルニアナ、またはプヤ・アルペストリス＝ベルテルニアナ種複合体—

植物園にはずいぶん前からプヤ・ベルテロニアナ（和名ヒスイラン、英名ブルー・プヤ）が導入されていて、1990 年代に最初に開花して以来 5 年間隔くらいで開花している。それが今年（2015 年）も開花しそうになっている（5 月頃に巨大なアスパラガスのような花序が出てくるので、植物園に問い合わせしてほしい；今年咲かなかったら来年か再来年にはきっと）。前回は 2008 年の開花なので実に 7 年ぶりだ。その前、2003 年に開花した時にそれまで和名がなかったので新しくヒスイランと名付けた。不勉強で英名があるのを知らなかったが、いずれにしても和名はなかったのでもあいまいかと思っている。

この植物の説明をするときにまずざっとイメージを持ってもらいたくて「パイナップルの仲間」というと、ますますわからなくなる人が多い。当然のことでパイナップルは日本では沖縄など温暖な地域で栽培されているくらいで、九州以北、特に近畿では温室に入れられない限りは育たない。売られている果物のパイナップルは元々花序で、ひし形をしたもの一つひとつが花が実となったもので、それがたくさん集まって一般的な果実に見えるのだ。普通に売られているものは切り捨てられてしまっているが、畑などで見ると食用となる部分の上には緑色の葉の



図 1、2. 植物園で 2008 年に開花したヒスイラン（ブルー・プヤ）。2-3 メートルくらいの高さになる。青緑色の花弁と濃いオレンジ色のオシベのコントラストが美しい。

集まり、下には柄のようなものがある。上の部分は茎の先端のようになっていて、切り取ってしばらく乾かしてから土に植えると株に育つ。この株は上の写真にあるプヤの下の部分と同じ様な形で、それぞれの葉のふちには鋭いとげが

びっしりついている。話をもどして、パイナップルは花序が実になったものだが、この花序がたくさんの枝に分枝して出来ていると想像してほしい。パイナップルではその枝の一つひとつに1つずつだけ花を付け、それが実になるのだが、プヤの場合はその枝にたくさんの花がついていると考えれば、プヤとパイナップルの同じところ、違う特徴がわかってくると思う。パイナップルをはじめとしてパイナップル科の植物の多くは中、南アメリカの熱帯から亜熱帯に分布している。ただ、アンデス山脈のかなりの高地(4000メー



図 3. チリのコルディジェラス(アンデス山脈の山系)の石の多い急斜面にある自生地のブルー・プヤ(*Puya alpestris*)とチリサボテンの一種(右上: トリコケレウス・チレンシス)。(ノース 1884 年の絵, 「楽園の光景, マリアンヌ・ノースの一生と仕事」より)

トル以上)にも生育していて、これくらいの標高になると氷河もあるので、結構寒い気候でも育つ(というより枯れない、というべきか)といえる。植物園では乾燥地植物園で冬に特別に寒さ対策をするでもなく、そのまま屋外で育てている。パイナップルの仲間ですら特に変わったものとして、園芸植物としてご存知の方もかなりあると思われるサルオガセモドキ(チランジア・ウスネオイデス)で代表されるエアープランツといわれる植物もある(自生地では時に電線に着生しているそう)。また、アナナス属、グズマニア属、エクメア属、フリーセア属、ブロメリア属など多くの観葉植物があるので観覧温室のある植物園、あるいは園芸植物好きのオーナーがいる喫茶店、大きな花屋さんなどで見て楽しんでいる可能性がある。

プヤの仲間は南アメリカの主にアンデス山脈などの高地に 200 種類くらい分布している。非常に大雑把にいうと花序の枝の先端まで花が咲くグループと、途中までのグループの 2 つに分けられている。ヒスイラン(ブルー・プヤ)(ボックスを参照のこと)は花序の枝の途中までしか花が咲かない。最初の写真(図 1, 2)で花序

?? ボックス ??

植物園のヒスイラン(ブルー・プヤ)の株は *Puya berteroniana* (以下 *Puya* を省略)と種名が付けられている。しかし、2013 年に国際科学誌に発表された論文では *berteroniana* は標本が非常に少なく、また新しく発見される株もほとんどなく実態がよくわからない、そして現在までの遺伝情報などを総合すると *alpestris* と *venusta* か、あるいは *alpestris* と *coerulea* との雑種だと提案している。さらに *alpestris* と *berteroniana* とは中間形がいろいろあって区別できないので、とりあえず両種を合せて種複合体とすべきだと提案している。上に紹介しているノースの絵にはブルー・プヤとして *alpestris* が描かれているが、植物園の“*berteroniana*”と非常に似ている。

どうも植物園のヒスイランは *Puya alpestris* としておけばいいようだ。*alpestris* には 2 亜種があり、そのうちの *Puya alpestris* subsp. *zoellneri* にあたるようだ。

の枝の途中まで花が付く様子がわかる。図 4、5、6 のプヤ・ライモンディも同じだ。この枝にはミツスイの仲間(?)の鳥が止まり、花の蜜を吸うときに花粉を運んでいるようだ。書籍やイン

ターネットの画像でよく探してみると、鳥がこの花序の枝に止まっているものが散見される。ヒスイランが以前開花したときに花を覗いてみたことがある。カップ状の青緑色の花の底には10 cc位の透明な液体がたまっていた。恐る恐る指を突っ込んでなめてみたら、香りのない結構甘い蜜だった。

プヤの仲間は種子が発芽してから成熟して開花するまで非常に長い時間が必要で、一度開花すると花序をつけた株は開花、結実の後に枯れる。ただし株は根元でいくつかに枝分かれし、花序ができない茎は枯れないので株は長く残る。特に有名なのはプヤ・ライモンディという種類で種子が発芽してから100年くらいで花序が立ち上がり、その高さは10メートル以上にもなる。この種類の場合、株は枝分かれしないので完全に枯死する（図5を参照）。

熱帯の植物の探査は18世紀ころからヨーロッパで植民地経営と関連して盛んにおこなわれるようになった。特に新大陸ではインカ帝国が高地にあったこともあり、山岳地域での植物の調査が早くから進められていたようで、ブルー・プヤもすでに19世紀には知られていた。図3は19世紀の探検家、博物学者、植物画家として著名なマリアンヌ・ノース氏（女性です：以下敬称略）の描いたものだ。ノースが1890年に死去した後、彼女の妹が原稿を整理して1892年に出版した「幸福な人生の回想録」（仮称）を簡約して1980年に発行された「楽園の光景 - マリアンヌの一生と仕事」（仮称）から引用した。これはチリ高地の植物の様子を示した絵画の一つで、1枚の絵の中にブルー・プヤの若い株→花序の枝のほぼ全部がそれぞれ苞に覆われている→花序の枝の付け根の蕾が開花しかけている→満開→花が終わって枯れていくまでのいくつかの株と花序が描かれている。この絵も含め彼女の絵はイギリスのキュー植物園にあるマリアンヌ・ノース・ギャラリーに収蔵・展示されている。この絵に描かれている株は英名ブルー・プヤ、学名はプヤ・アルペストリス（*Puya alpestris*）

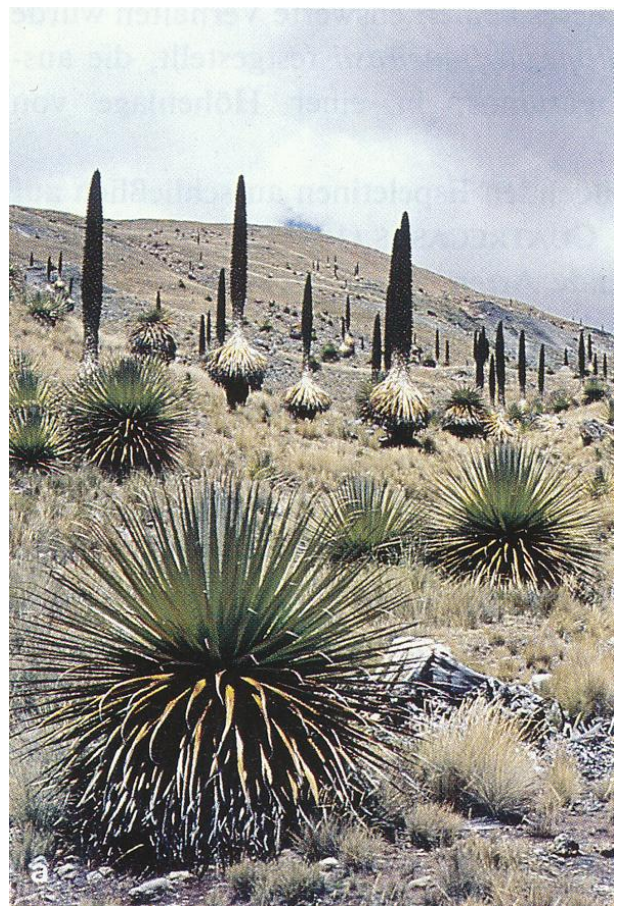
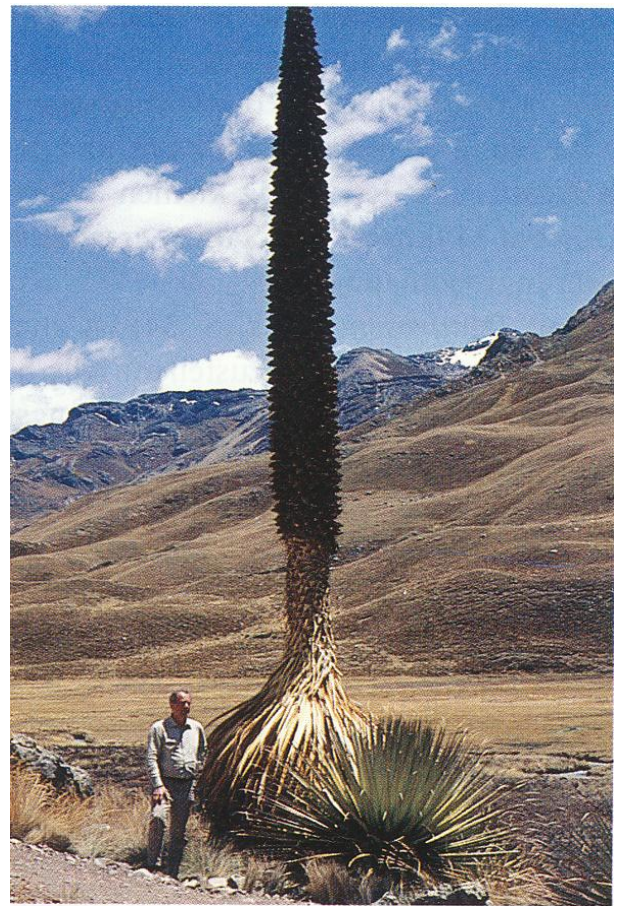


図4(上). プヤ・ライモンディ. プヤの中で最も大きい、高さ9メートルくらいの株。花が終わってほぼ全体が枯れている。ペルー中部。

図5(下). 同. 見渡す限りに広がる大群落（花序の付いた株はすべて枯死）。Rauh (1988). 「熱帯の高山植物」（仮称）より

となっていて植物園のプヤ・ベルテルニアナとは違う。しかし、ボックスにややわかりにくい
が詳しく書いているように両種は区別できない
もののようで、ここではブルー・プヤとして、
同じものかどうか（学名がどれにあたるのか）
は判断できないようだ。絵の株の花の色は鮮や
かな青緑色で植物園に植栽されている株の花よ
り色がやや淡い印象だが、育っていた環境がか
なり違うので問題にはならないと思う。

本題からかなり離れてしまうが、今回プヤの
紹介文を書くにあたっていろいろ書籍を調べて
いてマリアンヌ・ノースの本に行きついたので、
少し紹介したい。これまで不勉強でまったく知
らない人だったけれど、イギリスなどでは植物
学が発展しようとしていたころにアフリカをは
じめ、南米などの植物を探検し、描くことによ
って花の色、立体的な形など生きた状態の植物
の情報をヨーロッパに紹介した人の一人として
高く評価されていることが分かった。日本にも
1875 年（明治 8 年）11 月から 12 月末まで数十
日間滞在している。横浜から入って神戸、大阪
を経て京都で過ごしていた。しかし、長い間の
世界のあちこちへの旅などで体調を崩した状態
で日本に来たようで、日本の晩秋の寒さに加え
て開放的な日本家屋の寒さがこたえたようで
（周囲の壁が紙で出来ている！、と驚きの記述
あり [障子、あるいはふすまのことか]）、体が
こわばり、ついにはかろうじて這って歩くよう
な状態になった。リュウマチも出て、出国直前
には横浜に戻って医者の下で 10 日間過ごして、
やっと香港に向けて出国したと記されている。
仕方のないことだが、4 月頃に日本に来てれば
多くの花に囲まれた楽しい日々を過ごせただろ
うと思い、やや悔やまれた。

岡田 博

（ローマ字がたくさん入ったり、やや専門的で、
読みにくかったかもしれません）

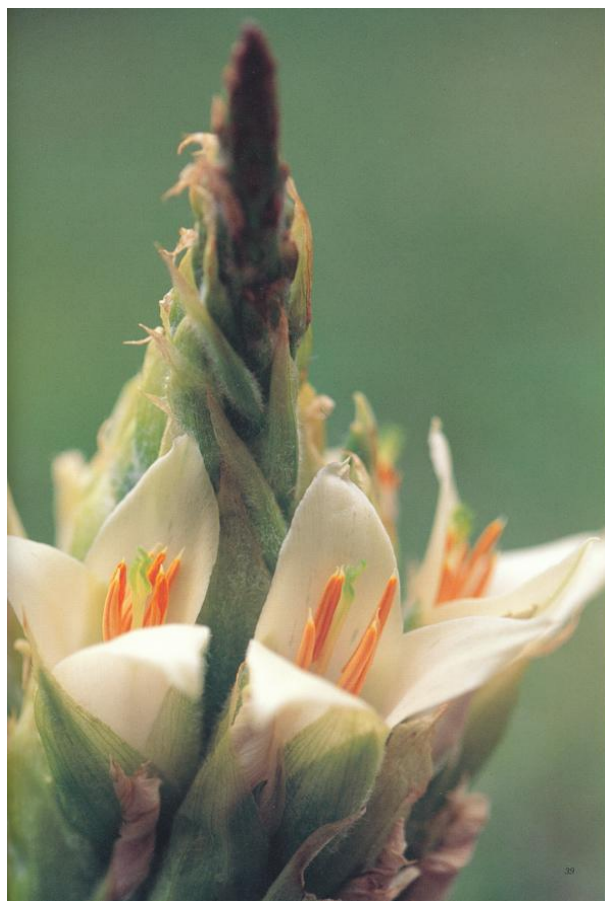


図 6(上). プヤ・ライモンディの花. 花卉の色は白.
プヤの仲間の花弁の色にはヒスイランの青緑色
のほかに、黄緑、青、薄紫などいろいろある.
花序の枝の先端につぼみは付いていない. ヒス
イランと同じグループにされている. 野村
(2005)「プーヤ・ライモンディ 100 年にいち
ど咲く花」より.

図 7(下). プヤ・クラバ・ヘルクリス. 毛に覆われ
ていて分かりにくいだが、花序の先端まで花が付
くグループ. 花卉の色は薄紫. Rauh (1988)「熱
帯の高山植物」より.



#12. 春の七草（茅原）.

春は生命が躍動を始める季節。寒い冬に春の野草を食べて春を味わう。何という贅沢だろうか。正月にごちそうを食べすぎて疲れた胃を休ませることもできる。スズナとスズシロは大陸から渡ってきた野菜。

ボランティア活動の報告

★かたのキャンパス 2014 への参加

12月23日（天皇誕生日）に植物園で開かれた交野市主催・植物園などの共催、協賛で開かれた「かたのキャンパス」に入会案内とハーブティーの提供の2つを出店しました。植物園から参加しないか、というお誘いをいただき、急きょ参加させていただきました。前日まで悪天候だったのが、当日はうそのようになり晴れ上がり、穏やかな一日でした。多くの市民、特に若い人たちの参加と、それに付き添ってきた（？連れられてきた）シニアの方たちで大

変なにぎわいが終日続きました。入会案内では数名の入会者と2-3名の入会予定者を得ることができました。

シニアの方の中にはもともと友の会の存在を知っているのに参加をためらっていた、という雰囲気の方が多くあり、いろいろ質問などいただきました。友の会だよりの見本刷りをお渡しして、いままでの、また今後の活動などについても説明することができました。このような機会にもっと友の会の存在をアピールすべきだと感じました。

ハーブティーの提供は注文を受けてからハーブに

お湯を注ぐという本格的なものでした。砂時計の砂が落ち切るまで待ってから提供するという、おしゃれでぜいたくな飲み物ということもあり、若い女性に特に人気で、一時行列ができるほどで、準備した材料をすべて使い切る盛況でした。



かたのキャンパスへの出店参加。入り口すぐそばの良い位置をいただき、多くの方に友の会をアピールできました。

❀花壇レポート❀

第11回：12月6日 11.00am-2.30pm（途中昼休憩）
（参加者7名）

- ・花壇の枯れたコリウスなど除去。展示用の「春の七草」の植え付け（育苗は杉原、中村両氏）。
- ・来年度の新花壇用地の除草、整地（耕耘は植物園職員の方にいただいた；深謝します）。

第12回：2015年1月17日 10.00-12.00am（参加者：6名）

- ・展示の「春の七草」の開設用看板設置
- ・来年度の新花壇用地の除草、整地。

第13回：2月7日 10.00-12.00am（参加者：10名）

- ・来年度の新花壇用地の除草、整地

第14回：3月4日 10.00-12.00am

- ・耕耘、畝たて（参加者：たより印刷中で未確認）

今後の予定（来年度用の花壇での作業）

- 3月中旬に畝の完成
- 4月に種まき、苗作り
- 5月に定植



新しい花壇を作るための畝立ては植物園で準備していただき、そのあとの除草作業中（植物園の方針によって除草剤は使用しないことになっている。子供さんたちも安心して園内の植物に接することが出来るようにするためとの事）。ワイワイ言いながら、笑い声が響いて楽しそう。入り口の芝生広場の奥、左手の研究温室そば。

★私市駅前広場の整備について

昨年11月に交野市への協力事業として植物園を通して「私市駅前広場の花壇などの整備」事業への協力の依頼がありました。現地の様子を調べたり、いろいろ検討しています。



京阪電車私市駅前。待ち合わせなどに利用されている。現在、クスノキが数本植栽されているだけで、やや殺風景になっていて、整備してほしいという要望が寄せられている。

❀友の会ボランティア活動グループへのおさそい

平成27年4月より使用させていただく花壇が変わります。それに伴い大幅に花壇面積が広がります

(現在の10倍以上；芝生広場の奥、左手の研究温室そば)。大阪の伝統野菜(5種類)、コンニャクなど古くからの日本の作物、アイ、アカバナ、ムラサキ、アカネ〔つる植物〕など染料植物、ヒョウタンなどのつる植物を栽培展示する予定です。植物園での展示としてはかなり変則ですが(畑のようになりそう)、どのようなものになるか実験してみます。

きれいな空気に包まれて、土や植物に触れながらゆったりとした時を一緒に過ごしませんか。是非ご参加ください。取りあえず植物園においでになった折に新花壇をのぞいてみてください。作業日でしたらワイワイ、ガヤガヤと楽しそうにやっている様子をご覧くださいと思います(予定日：偶数月は第1土曜日、奇数月は第1水曜日；いずれも午前10時より)。恵まれた環境の下で土に親しむことは本当に気持ちのいいものです。友達やご家族の方々と誘い合わせてどうぞ。

連絡先はこのたよりの最後にある友の会宛にお願いします。または、上記のスケジュールを参考にされて、直接お出でください。

友の会よりお知らせとお願い

★2015年度の総会のお知らせ

以下のように友の会の総会を開きます。ぜひご参加ください。

平成27年度友の会総会

日時：2014年4月5日午後3時より
場所：植物園 研究棟 講義室

総会に参加されるときに同封の総会資料をお持ちください。

総会終了後、午後4時ころより懇親会を開催する予定です(参加費：1000円程度)。

また、総会に先立って午後1時より園芸講習会が行われます。

★平成27年度講習会などのお知らせ

★園芸講習会

日時：4月4日(土) 午後1時より
場所：展示棟
講師：杉原 逸朗氏(元植物園)

★園内観察会

植物園で楽しく過ごしましょうⅡ
日時：5月30日(土) 午後1時より
場所：事務所前集合
講師：岡田 博氏(元植物園)

★草木染め講習会

アイの生葉染め(友の会の花壇ボランティアで栽培中のアイを当日刈り取り、利用する予定)
日時：8月1日(土) 午後1時より
場所：展示棟実習室
講師：岩佐 禎子氏・酒井 恭子氏
定員：20名程度
材料費：実費500円程度を予定(当日いただきます)。

★投書コーナーへの投稿のお願い

- ・植物園や友の会に関する様々な感想、意見、質問、情報や、園内の景観や植物の写真、絵画、線画などに題、コメントなどを付けてお寄せください。
- ・植物の観察などの記事、植物園の景観、記録、写真などを含めて刷り上がり1-2ページくらいにまとめてご投稿ください。
- ・体裁などは今までのたよりに掲載されたものを参考にしてください。
- ・いずれも氏名、連絡先、匿名希望の有無などを付けてください(連絡先は掲載しません)。
- ・写真は.jpgのファイルを、原稿はMicrosoft Wordか.txtファイルにして、Eメールでお送りくださるか、SDカードにセーブしてお送りくださるか、もしくは直接お持ち寄りください。(カードは後ほどお返しします)
- ・あて先はEメールアドレスの tomonokainohenshu@gmail.com、または「植物園事務所気付 友の会」です。
- ・掲載の可否は編集部にて御一任ください。

季節の花だより

もっとも花の多い季節なので挙げきれません。
ごく一部だけ紹介します。

	場所	4 月	5 月	6 月
ツバキ	ツバキ園など	✿		
キンギンボク	花木園	✿		
サンザシ	花木園	✿		
コバノトネリコ	落葉樹見本園	✿	✿	
ハナミズキ	落葉樹見本園	✿	✿	
シモクレン	マгноリア園	✿	✿	
タムシバ	マгноリア園	✿	✿	
レンゲツツジ	落葉樹見本園	✿	✿	
オオカナメモチ	東亜区	✿	✿	✿
カリン	果樹園	✿	✿	✿
アサガラ	落葉樹見本園		✿	✿
オニグルミ	落葉樹見本園		✿	✿
ツクバネガキ	花木園		✿	✿
ヒメウツギ	花木園		✿	✿



ハナミズキ（別称アメリカヤマボウシ：マгноリア園入り口付近、4 月）



タムシバ（マгноリア園、4 月）



ツバキ（京鹿の子；ツバキ山、3 月）



ハクウンボク（落葉樹見本園、5 月）

〒576-0004 交野市私市 2000
大阪市立大学理学部附属植物園 気付 友の会
友の会だより編集部
e-mail: tomonokainohenshu@gmail.com